

令和4年生駒市教育委員会第4回定例会会議録

1 日 時 令和4年4月25日(月) 午前11時00分～午後12時09分

2 場 所 生駒市役所 大会議室

3 審査事項

- (1) 報告第3号 令和4年生駒市議会第2回(3月)定例会提出議案の結果について
- (2) 報告第4号 人事異動の総括について

4 教育委員会出席者

教育長	原 井 葉 子		
委員(教育長職務代理者)	飯 島 敏 文	委 員	神 澤 創
委員	坪 井 美 佐	委 員	レイノルズあい
委員	伊 藤 智 子	委 員	古 島 尚 弥
委員	中 川 義 三	委 員	吉 尾 典 子

5 事務局職員出席者

教育子ども部長	奥 田 吉 伸	教育子ども部次長	坂 谷 操
生涯学習部長	八 重 史 子	教育総務課長	山 本 英 樹
教育指導課長	前 田 伸 行	幼保子ども園課指導主事	喜 多 美 枝 子
幼保子ども園課指導主事	湯 川 祐 美 子	子ども総務課長	武 元 一 真
子育て支援総合センター所長	角 井 智 穂	生涯学習課長	清 水 紀 子
図書館長	西 野 貴 子	図書館課課長	錦 好 見
スポーツ振興課長	西 政 仁	教育総務課課長補佐	石 田 昌 代
学校給食センター所長	古 林 像 一	教育指導課課長補佐	花 山 浩 一
教育政策室長	日 高 興 人	幼保子ども園課課長補佐	福 山 清 美
子どもサポートセンター所長	若 狹 美 登 里	生涯学習課課長補佐	井 川 啓 一 郎
図書館南分館長	谷 江 真 美 子	生駒駅前図書室長	入 井 知 子
教育総務課(書記)	佐 竹 裕 介	教育総務課(書記)	吉 川 優 香

6 傍聴者 0名

○開会宣告

○教育委員会委員の紹介について

中川委員：私は生駒小学校に13年間勤めていた。また、上北山村や天理市にて教員をし、天理市教育委員会事務局にて務めていた経験もある。直近では、朝和公民館の館長をしていた。現在、私の教え子たちも子どもが生まれ、生駒市で楽しい学校生活を送っているようだ。皆様の力を借りながら、生駒市の子どもたちがさらに楽しく過ごせるような手助けがしたい。

吉尾委員：私は平成30年度まで生駒市内の公立幼稚園で勤務していた。その中で、生駒山が真正面に見える幼稚園に勤務していたことがあった。生駒山は天気等によって、様々な姿を見ることができ、その存在感が変わることはない。そんな生駒山を見るたびに、背中を押されているように感じる。変わるようで変わらない生駒山から、不易流行という言葉思い出す。不易とは、時代が変わっても変わることのない教育の本質であり、流行というのは時代が変わるにつれて変わるべき姿である。これらが上手く合わさることで教育はよりよいものになると考えているので、この思いを忘れず教育と向き合っていきたい。また、この席にいと、一昨年度までいらっしやった寺田委員を思い出す。寺田先生は職場の先輩であり、憧れの存在であった。寺田先生も生駒山のように背中を押してくれていると信じている。皆様の力も借りながら、微力ではあるが尽力したい。

飯島委員：私は比較的長い期間在籍しているが、まだまだ勉強しなくてはならないことがあると感じている。毎年生駒市は、全国学力調査において比較的高いレベルにある。高いレベルにあるからこそ生駒市らしさを打ち出せる余裕があるのではないかと考えている。現在ICTが発展し、子どもたちが1人1台端末を持つ時代になり、新卒の先生方はほぼデジタルネイティブであるだろう。しかしデジタルネイティブであるからと言って、ICT機器を使いこなした教育ができるとは限らず、学校教育におけるICTの活用はまだ始まって間もない。今はまだ伝統的教具をICTに置き換えるような使い方しかできていないが、これからはICT機器でしかできないことを問われるようになるだろう。事務局の皆様は非常に精力的に新しいものを取り入れてくれているので、今後ともお願いしたい。

神澤委員：専門は心理臨床である。生駒市では昨年ようやく「SOSの出し方教室」を開催することができた。子どもたちの生きづらさを取り除くことはできないが、上手く付き合っていくことを教えていきたいと考えている。また、生駒市にはひだまりクローバーがあるが、発達支援や障害者支援の問題はこれからの課題である。地域で形にしていきたいと考えているので、協力をお願いしたい。

坪井委員：市民公募であり、保護者として在籍している。私は保護者と学校との橋渡しができればと考えている。7年在籍しているが、市民感覚を反映することを忘れずに務めていきたい。

レノル委員：私も坪井委員同様7年目になる。これから新しい委員が加わるということで、より多方面の視点や意見が得られることになるので楽しみである。私は民間企業で管理職をしているので、女性管理職の課題など、自分が持っている視点を大事にしつつ今年度も務めていきたい。

伊藤委員：私も坪井委員同様保護者委員である。以前は市民活動が仕事だったこともあり、子どもたちの自発性を促進することに関心がある。今年度は、鹿ノ台小学校で行われる放課後子ども教室に力を入れたいと考えており、地域の有志の仲間たちと準備を進めているところである。現場に入れるということで期待感を持っている。少しでも現場のことが理解できるようになりたい。

古島委員：保護者であり、大阪の私立高校の現役の教員でもある。学校現場のことは分かっているつもりであるので、現場の視点を意識しながら貢献していきたい。また、今年度から教職大学院に通うことになり、これまでの経験をより専門的に学ぶつもりだ。学校訪問で、ミドルリーダーの不足を感じており、課題だと考えている。現場がより良くなっていく方法を皆様と一緒に考えていきたい。

原井教育長：4月より2年目となった。今年度のアクションプランを基に作成した学校教育目標については、4月の校長会にて共有した。その中でも次の3点は重要であると説明した。1点目はICTを有効活用した教育活動の推進。2点目は地域に開かれた学校づくり。3点目は全ての子どもたちにとって安心して過ごせる居場所づくり。これらを推進していただきたいと話した。また、園長会では、保幼小の連携事業や、保護者や地域と協働した特色ある園づくりを目指していただきたいと話した。さらに、子育て支援事業としては、安心して子育てができるまちの実現に向けて、子育て支援の充実を実現していきたいと考えている。生涯学習においても、子どもから高齢者まで全ての世代が主体的に学ぶことができる場の創設や、多くの市民が参加できる図書館事業及びスポーツ振興事業に取り組んでいきたい。これらの実現に向けて、今年度から事務局も再編成した。挑戦していく心を大切にしてほしいと考えている。また様々なご提案やご意見いただきたい。

○日程第1 議席の指定について

○日程第2 前回会議録の承認

○日程第3 教育長報告

- 古島委員：4月に入ってからの新型コロナウイルス感染症の状況を教えていただきたい。
- 奥田部長：現在、何件か報告を受け始めている状態である。22日には3か所の保育園から陽性者3名の報告を受けた。23日、24日には小学校、中学校、幼稚園で1件ずつと、保育園で4件陽性者の報告を受けた。この7件については現在対応中である。生駒市のホームページに載せるような案件があれば掲載するので、随時見ていただきたい。
- 古島委員：現在、勤務先の大阪の学校では、入学早々学級閉鎖が発生している状況である。生駒市は大阪の影響を受けやすいかと思うので、引き続き注意が必要である。
- 坪井委員：これから予定している修学旅行や体育大会等について、どのような判断のもとで保護者は学校から告知を受けるのか。
- 奥田部長：生駒市では随時新型コロナウイルス対策本部会議を行っている。新型コロナウイルス感染症による生駒市全体の対応を考えていく会議であり、学校現場や生涯学習施設の運営についても決定されている。現在、全国的にまん延防止等重点処置や緊急事態宣言等が出ていない状況である。この状況であれば、感染対策を行いながら通常に近い形で進めていきたいと考えている。プールや修学旅行についても感染対策を行いながら実施したいと考えている。なお、修学旅行については早いところで4月に実施している。タイミングを見ながら、日を変更して実施したいと考えている。体育大会については現在実施予定であるが、こちらも状況を見ながらになる。
- 中川委員：事務局はいつも早い対応で有難いと感じている。様々な機関で混乱が生じている中、学校の中の感染も上手く対応できていると感じている。大変かと思うが今後とも対応お願いしたい。
- 飯島委員：感染の状況について、感染を広げた例や防げた例があれば聞きたい。
- 奥田部長：感染が拡大した例として、窓際の生徒に発症があり、憶測ではあるが、エアコンの風がウイルスを運んでいることが考えられる。また、やはりマスクをしていない状況では感染が広がりやすいとも感じる。さらに、家庭内感染も非常に多く、10歳未満と10歳代が生駒市の感染者数の半数を占めている状況である。数字的なものを見ながら、日々警戒心を持ちながら対応していきたい。もちろん強制はできないが、今後も引き続き出来る限りのマスクの着用をお願いしながら教育活動を進めていきたい。
- 飯島委員：子どもたちも先生方も感染対策に疲れているように感じる。しかし、現状を聞くと今後も徹底して感染対策に努める必要があると感じた。引き続きお願いしたい。
- 吉尾委員：子どもたちが新型コロナウイルス感染症について座談会をしているニュースを見た。コロナ対策をしながら、子どもたちの心のケアも考えていただきたい。それからもう1点、先生方の感染状況はどうか。

奥田部長：職員についても感染対策は徹底しているが、家庭内感染している子どもと接して感染した例を日々報告いただいている。オミクロン株については特に感染力が高く、対策を徹底していても感染してしまう場合はある。再任用職員が代替に来ていただいたこともあった。運営を円滑に進めることのできるよう進めていきたいが、状況によっては園を閉じなければならない場合もあるかもしれない。引き続き対応を進めていきたい。

○日程第4 報告第3号 令和4年生駒市議会第2回（3月）定例会提出議案の結果について

- ・令和4年生駒市議会第2回（3月）定例会提出議案の結果について、山本教育総務課長から説明
＜参照：議案書p1＞
（質疑）なし

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第5 報告第4号 人事異動の総括について

- ・人事異動の総括について、山本教育総務課長から説明
＜参照：議案書p2、資料1、資料2＞
（質疑）

伊藤委員：市内の先生の数は足りているのか。

山本課長：伊藤委員のご指摘通り、定数に達していない。年度当初は10名程度不足していた。現在でも各校で1、2名ほど足りていない状況である。育休や産休による不足もある。さらに、教員になる方が減っていることが問題である。知人に声をかける等で尽力しているところである。

原井教育長：特に小学校が足りていない。

飯島委員：管理職の資格を持っている方や、挑戦する方が少ないかと思う。教員人事は生駒市のみで決めていることではないが、生駒市として改善するための取り組みがあれば教えていただきたい。

奥田部長：おっしゃる通り教員人事は奈良県が行っている。市が募集をかけて県に紹介する場合もあるので、尽力している。校長試験や教頭試験については、学校長や事務局からのアプローチをしているところではある。また、校長は年に2回ほど教育長との面談があるが、教頭先生はない。そのため今年度からは、私との面談の機会を設けたいと考えている。そこで校長試験の受験も促したいと考えている。まずは1人でも多くの受験者を増やしていきたい。奈良県教育委員会へ実状を訴えながら進めていきたい。

原井教育長：全国的に教師の業務のイメージが悪いことが要因の1つである。管理職になったら仕事が増えてしまうということを理由に敬遠してしまう現状があ

る。生駒市としては、働き方改革の1つとしてスクール・サポート・スタッフを任用している。生駒市で先生をすることの楽しさを発信できるような環境作りに取り組みたい。

審議結果 【報告のとおり承認】

○日程第6 その他

・令和4年5月行事予定について、山本教育総務課長、清水生涯学習課長から説明（質疑）なし

○閉会宣告

午後12時09分 閉会